延胡索 婆羅得 異実酢林子 樺木

特1
2175

国立国会図書館　請求記号 特1-2175
タイトル『延胡索・婆羅得・異実醋林子・樺木』

ガラス使用

31.8.29

国立国会図書館　請求記号 特1-2175
タイトル『延胡索・婆羅得・異実醋林子・樺木』

ガラス使用

延胡索　婆羅得　異實酢林子　樺木

特1
2175

国立国会図書館　請求記号 特1-2175
タイトル『延胡索・婆羅得・異実醋林子・樺木』
ガラス使用

延胡索

一此度延胡索見当り故上信濃より
[illegible]
[illegible]
[illegible]

特1—2175

国立国会図書館　請求記号 特1-2175
タイトル『延胡索・婆羅得・異実醋林子・樺木』

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中ゝ像ゝ以雲ハ延胡索ハ名ハ玄
胡索と中ハ好き宋の李宗の諱を
玄と改中ハ板延の字に代へしと本
草に李見ヘ中ハ陳藏器が本性を
以て奚毒に生ゝ安東ゝ寒根ハ
生薬の如くにして良薬なり
本記ゝ中ゝ又時珍ハ乃東ハ

東方今之黄山西ハ秋間ハ枯ヘ春
寒露の時栽ゝ立春の時苗生ず
竹家のごとくゝ二月花ゝ子根
葉生ず草卵根のごとくゝ立夏に種
ずゝ中記ゝ時ゝ具ハ記しやすゝ
花實ゝ中ゝ時ゝ子像ゝ見ヘ
私云ゝ黄ハ荷包牡丹の葉ハ似ゝ

小にして実はり花穎に花の莖葉
に似て少し大なり花又莖葉ともに
紫色なり莖葉の形蓼に似たり根零
餘子おらび玉芋のごとくにして
少なり時珍云蓼の坂栽を
生蓼と称するなり了行云唐の貴

為中に大僕令玉冰う素問に云う
九月の節に入るなり此時陰気の気を
結び実をなすなり故に称す
九月の節に入日より坂栽を少生運
気を為す故に常無年去年大金
の時節なり故日を数百四十四日わ
九月の節に入中ふ去年の閏月

正月より九月中旬迄内有之年ハ
なくなる事ハ是ハ運命に
より用ゆる薬の儀と相発生
仕候集の後昔世事と相変中
又当年の事ハ運気時節に
毎年然る処翌日正月の節に入日
中にて少変又時刻より
見て中ハ是ハ毎年四月の節に入日
指して中にて少変ハ八十八夜
より化五日ハ五月十二変
別限の遅速にて六日ハ五月
少変時節に上旬に中に
五変時節に上旬に中に
延胡索に作別録一冊
書為ハ成沢少変道中より

の儀ゝ雲南府城ゟ
一又中ゟ元来ハ延胡索中之書付
共
我中相付有ハ
山中ゟ黒ゟ
有ゝ故ゟ
謂ハ
故有ゝ

山中ゟ七里
部林子の
未ゟ
ゟ
日数ハ中ゟ故

婆羅得

一野蠻所得之中物世人不存ぜざる物言
山人菓の子末と喝中に本彩深山中と
為く生しに山の雲と成て天
莫物に乏雲唯雄と為て天
竹を持て中に蠻所也と乃雲
如中拔在樹之事存切録と為記

世蓋の物とり雲外蓋必要に応じ勧
と如記しかれ要像おられ一番の時
の子八草麻子おられ蓋実のまくに
り薩摩故樵夫名は等て葉の子木也
中山子の形茶の子に似て故に名称
野子と取ゆく油を搗焼し又蝋燭に
と称なものにり産り此像れ及

別の畫にと表見當り而中山の時面表
茎高八尺ヶ根よ赤く見事に成る実
は果穂より大木八寸ヶ地に一尺四五
寸迄り薩ヶ根なるを八子を多く付中
是小木にて子の体中あて八分ヶ多く
皆世人存知ざる物に付新奇
語人と為る中度高麻の世未知

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

異實醋林子

一此醋林子ハ当種の所にて一種ハ味をのみ
酸く子も多くして用ル味なる物にて
色子ハ赤くして形異成をのもて
ひとつ枝山形の樵夫山男と唱申候
子の形なりと申候傳聞又山人不
審とのもて山人ハ猿の山男と申候

国立国会図書館　請求記号 特1-2175
タイトル『延胡索・婆羅得・異実醋林子・樺木』
ガラス使用

功能と年代に出たる諸侯高麗の産物
八えくすりの性今年秋の異實醋林子
と又婆羅得と高木なるべし其発生
し事蔕の所如蔕任事稀不
事元年に出る時序
奉獻上

樺木

此樺木元来唐土産なるものに
ゆゑ故度と中に伝聞なるべし
中に伝説のなりに事稀時木
脣木の部に載たる所形ものに
巻毛を微中にかば樺木に
木篇を兼て中事出使樺

ゝ未と中是へ物生ゝ然るに樣と中
未寸彩に或檢案稱り雲（庭）に樹て
ゝて以ゝ代び中ゝ中吉ゝり花と中ゝば
樹に物ゝ中ゝし和彩詩歌時ゝ出ゝに
是ゝ中ゝ樹と中未中美に日ゝの緋櫻
ゝ物ゝ彩ゝ白ゝ本彩の樹と心ゝ行ゝゝ
中彩ゝ物ゝ樹ゝ彩の書に天ゝ中ゝ枝

木篇に華の字出中ゝ中ゝ時未ゝ咲中ゝ
枝ゝ八ゝ生ゝ物ゝ中ゝ陳蔕ゝ蕊ゝ中華の中ゝ蕊
樹に作ゝゝ中ゝ彩ゝ中時珍ゝゝ中ゝ（畫）土
皮ゝ以烟燒紙ゝ薑中ゝ書ゝ出に代中ゝ枝
如ゝ中ゝ中ゝ中ゝ中ゝ時未ゝ中ゝの土藥
ゝ生ゝて一種の花果ゝ夫時ゝ中ゝ中ゝ
八皮ゝ寸ゝ中ゝ中ゝ中ゝ生ゝ中然

国立国会図書館　請求記号 特1-2175
タイトル『延胡索・婆羅得・異実醋林子・樺木』
ガラス使用

細なるものハ皮と中間に厚みを生ず
故に此樹を植る所ハ高地に適し又花
小なれども味の美なるを以て称賞す
皮ハ厚く[illegible]厚き物にして
見ハ土民池[陀カ]の靭山服部の靭木を賞
乃原
美中奈良通曹司部中奈良の内に別
当此之種を植る所の物と聞ける

一此度献上仕候ハ[illegible]樹中に木に生ず木
丁度[illegible]なる[illegible]成ハ
に黄木[illegible]自みを[illegible]
[illegible]れ[illegible]此黄木に類木之種[illegible]
[illegible]又[illegible]の木[illegible]檀の木を中木共
[illegible]中[illegible]内ハ一
[illegible]

特1
2175

事実にて物ゝ形ハ形の毒種ゝ成ハ
其他の種ゝ成ると吉相の歩弱ゝ成
一切の業分未ゝ業物形きハ毒に入
形きハ気に入ゝ業ゝ時樺木義又
同様に事務ゝ又時未未ゝ成ゝ
二種の影木ゝ業ゝ一種ハ細肌一種
木破一種ハ白樺ゝ成又峯張ゝ

鳴ゝ成ハ木も時影木に成ゝ一切ゝ
木の皮堅ゝ使ハ成ゝ成ゝ成ゝ
木の皮様に業ハ成ハ玉民財皮ゝ焼に仕
民用ゝ成ハ成ゝ成ゝ皮ゝ以て燭ゝ成
事ゝ見ハ成

甲州之醫云此樺木花ハ菊ノ花ノ如クニシテ
花不散云云

国立国会図書館　請求記号 特1-2175
タイトル『延胡索・婆羅得・異実醋林子・樺木』
ガラス使用

特1
2175

国立国会図書館　　請求記号 特1-2175
タイトル『延胡索・婆羅得・異実醋林子・樺木』

ガラス使用

国立国会図書館　　請求記号 特1-2175
タイトル『延胡索・婆羅得・異実醋林子・樺木』

ガラス使用